



写真・市谷 健「緑の空気を吸いこもうよ！」

## 支えあつての 人生だから

山口県岩国市の岸本止さんは八十七歳です。よろずや屋を営んでいた二十年前、頼まれてダスキンの交換を始めました。店は閉めました。が、市内から車で三十分ほどの山あい、いまも三つの集落二十五軒のお世話をしています。

自分も結構な年だが、訪ねる先も高齢のひとり暮らしの方が多く、「ご苦労様、助かります」「元気かい

ね、変わりはないかね」「励ましたり励まされたりだと、大きな声で笑っておられました。「いつもより遅いけれど、具合でもわるいのですか」と電話をもらうこともあります。積もる話で時には茶菓子が出て、午前中いっぱいかかる日もあり、仕事のなかにあたたかい人情を感じます。自分の訪問が待たれていることに嬉しさを感じながら、元気で動ける間は続けたいと思っています。

ダスキンの創業者鈴木清一は、「いかに多くの人に喜ばれるか、いか

に多くの人のお役に立つか、という事を、日々の生活の中に、生かしてゆく事こそが、人生の目的であり、人間の生きがいであると思うのです」と言っていました。「ご縁があつて、つながりあつて支えあつての人生だから」と、戦争、抑留、国鉄職員、よろず屋と人生を歩んできた岸本さん、お客様を訪ねる姿に創業者の思いが重なります。

株式会社ダスキん会長 伊東英幸

# 喜びのタネまき新聞

読む人の幸せを心に願って作る

かれこれ二十七年、ひたすら葉っぱの世界を歩き続けてきた私ですが最近、花や野菜くんたちも親しげに近づいてくれるようになりました。前回の「ユリノキの花」に続いて、今回も木の花、「ヤブツバキ」をご紹介します。

木の花「ヤブツバキ」

くれないの花一輪

春まだ遠い冬のこと。こんこんと雪の降り積もる国営昭和記念公園にてかけました。わた帽子をかぶった木々の梢にヤブツバキや山茶花の花が点々と咲いています。一面の銀世界の中で赤々と燃えるようなお花は、妖精たちの暖炉の炎のよう。

「冬の花つていいなー」  
（描いてみようかな）とささやく心の声。葉っぱばかりを描く私を心配して、父に「花を描いたら？」と言われても、気のない返事しかなかったのに…。

でも、色とりどりの春の花々が競い合うように咲き乱れ、満開になったら「ダメだー。きれい過ぎて、心に響かないよー」と天邪鬼な私。

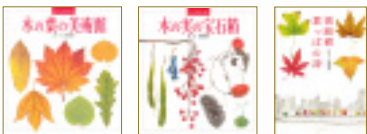
四月の初め、新緑に包まれた真つ黒な大地に、あの「妖精たちの暖炉の炎」が落ちていたのです。それは、私の画家魂に灯をつけました。



ヤブツバキの花／紙にテンペラ

木の花は戦国武将

●四月二十一日 自然は休まない。一週間前にはあんなに咲いていたのに、もうツバキの季節は終わったのかな？ サイクリングコース脇で発見！  
●四月二十二日 卓上のヤブツバキの花は、刻々と表情を変えていく。花びらの色の艶やかさ、おしべの黄色の鮮やかさ。どうやって描けばいいんだ!? 難しい。







「美容院ごっこなの」  
滋賀県湖南市 山森由美



「妹ができたから、  
もう、お兄ちゃんの仲間入りさ」  
大阪市 曾我部茂



「のほほん、ぼわん。あったかいね。」  
東京都江戸川区 小高由紀子

家族や友だちにしか撮れないステキな笑顔、みんなに見てもらいたいわたし好みの1枚。もちろんかわいいペットも撮れたら送ってください。お待ちしております！  
(詳細は7ページ)

見てうれし、見せてうれし、この写真。わたしの出番の1枚をドシドシ送ってください。

みてもらおう！



## おやつ時間 簡単、美味しい楽ラクレシピ



お料理研究家 こいけりえ



### そろそろ新茶の季節です！ 「抹茶のカップケーキ」

お茶のおいしい季節です。抹茶を使った清々しい緑色のスポンジに生クリームとアズキをのせたカワイイおやつです。紙カップに生地を入れ、電子レンジで温めるだけ。ほどよい甘さと抹茶の香りが楽しめます。紅茶もいけど緑茶にも合うんだなあー、これが…。

#### ◎生地を作る(5〜6個分)

薄力粉90gとベーキングパウダー小さじ1をふるいにかけておく。ボウルに卵2個を割り入れ、ほぐしたら、グラニュー糖60gを加えて、泡だて器を使い全体がトロツとするまで泡立てる。抹茶小さじ2にお湯小さじ2を加え、よく練り合わせる。溶かした抹茶を卵とグラニュー糖を合わせた中に加えて、抹茶がなじむように混ぜ合わせる。そこへふるったおいた粉を2〜3回に分けて入れ、ダマがでず粉っぽくならないように、ゴムベラで切るようにして混ぜる。耐熱容器にバター90gを入れ、ラップをかけて電子レンジで1分くらい加熱しバターを溶かす。溶かしたバターを抹茶の生地の入ったボウルに入れて、しっかりと混ぜ合わせる。

#### ◎生地を焼く

底の直径が6cmくらいの紙カップを一つずつ耐熱容器の中に入れ、出来上がった生地を等分に平らになるように入れる。あとで生地が膨らむので、紙カップの8分目くらいまで入れる。上からラップを真ん中を膨らませるようにふんわりとかける。3個ずつくらいを電子レンジに入れて、1分30秒〜2分くらい加熱する。ふくらと出来あがったら、耐熱容器からはずして冷ましておく。

#### ◎トッピング

生クリーム50ccにグラニュー糖小さじ1を加えて8分立てにする。生クリームはスプーンですくうと角が立つような感じです。紙カップを外した抹茶ケーキの上に、生クリームをスプーンでポタッとつけて、その上にお好みで茹でアズキをのせて完成です。



まん中の上き  
ふくらと  
させる



よく練り  
合わせる  
のザコン!

- 四月二十三日 花びらの縁が黒っぽい紫色に。葉っぱに茶色の斑点も…。急がなくちゃ!
- 四月二十四日 木曜はいつも雨。花にめどをつけ、葉っぱを描き始める。
- 四月二十五日 朝、アトリエに着くと、花が落ちていた。広口びんの中に器用に入り込んでいた。机の上に葉っぱも一枚。お花に恋して一緒に散ったのかな?
- 四月二十七日 木の花は戦国武将みたい。一人ひとり木の名を名乗り、散っていく。あと少しで、ヤブツバキの花が完成!

アート&エッセイ。  
[木の葉の美術館] [木の葉の宝石箱]  
(各2100円)。  
最新刊「街路樹 葉っぱの詩」(B5判2  
32ページ/2310円)いづれも世界文化  
社刊(価格は税込み)。

群馬直美/群馬県高崎市生まれ。東京  
都立川市在住の画家。作品はインテ  
ネットでもご覧になれます。  
<http://www.wood.jp/konoha/>

## 黒龍江の解氷

五尺もある厚い氷

遠い兩岸をぎっしりと、はりつめていた氷

その下で眠っていた黒龍江が

ひとつ大きなあくびをしてから

春の息吹をいっぱい吸いこんだ。

めりめりつと氷が割れるくだける

地響きを立てながら

半年も地面のように動かなかった川が

今動き出した

あちらこちらに川波が光り出した

ああ自然の大きな脈拍

しょう湖をのみ うすり湖をのみ

遙かオホーツク海に向かつて

はああと冬の名残を吐く

やがて黒龍江は、やさしい手を広げ

我が子のように満州を抱きかかえて

春の歌を歌う

小学校五年の国語にありました。今も記憶の中に残っています。氷点下の寒さが続く外地で春のおとずれを感じるところがよかったです。昭和十四年、家族で満州開拓団として渡満したのです。

新しい校舎が出来、広々とした裏山には雪どけと同時に福寿草の花がいっぱい咲き、少し経つと丘の上にすずらんの花も一面に咲き始めます。

あの豊かな地で希望に胸をはずませた学校生活の中で、突然の敗戦にはおどろきました——満州を発つてから、どれだけ距離を歩き続けたか判りません——やっつのおもいで汽車に乗り、コロ島から乗船し、博多港に上陸した時は安堵感でいっぱいでした。裸同然の帰国で生活も大変だったので、秋田から上京して社会人となり働きました。

いろいろな事がありました。今年も孫も就職が決まり、成人式を迎えた子もいます。学校ではやさしい先生方に勉強を教えてもらえて、心の中に宝物がいっぱいつまっています。

あまのひの  
あなへ  
みんなおしくなじ。

前号でご紹介した文花中学校夜間学級では、様々な事情で義務教育を受けられなかった10代から80代の人が学んでいます。各々の進度に応じて日本語をていねいに教え、生きて行く力となるように、それが先生たちの目標です。今回はたった3年の勉強で卒業生が書いた作文です。たとえどんなに間に滲む人生のきびしさ、けれど、みんな私たちと同じなんだと深く感じ、かけがえない今日を、希望をもってひたすら歩む大切さを教えられた気持ちがあります。

## 日本での生活

B組 Sさん

昨年の六月三日、日本に来ました。夜七時に、成田空港に着きました。空は真っ暗でした。でも、下にはたくさん電気がついています。「これは日本だ」とこの時思いました。

私のおばさんが、迎えに来ていました。これから私は、このきれいな土地で生活する。ちよつと、うれしい感じでした。九月、日本語を勉強するために文花中学へ来て、一年と三ヶ月を過ごしました。

この先生はやさしくて、いっぱい日本語を教えてくださいました。日本語だけでなく、人生の道理、仕事、家族、いろいろなことを助けてくれました。たくさんさんの友達を作り、皆と一緒に学習し、遊び、もう疲れは忘れませんでした。

さようなら  
またあした

9じ5ふん、じゆぎ  
ようがおわると、みな  
さんでそうじをしま  
す。そうじがおわる  
と、わたしはいいす。



## 私の猫

B組 Nさん

私の前世は猫かも知れません。いろいろな町に行ったとき、毎度猫ににやんにやんと呼びかけると、確かに返事があります。

上海から連れてきた猫は、マオミイといえます。マオミイは娘の桜が飼っていた猫です。桜は猫の主人です。しかし猫の面倒、全然みなくて、私は、猫可哀想です。

その猫は一九七七年に生まれました。私飼ってもう十一年になりました。この子を飼うのは難しかった。死んでも悲しかったです。

今飼っている猫は、マオミイの子です。名前は、野良と呼びます。野良を育てるのは、また難しくなった。

しかし、人生はいろいろな山を越えて行くことです。私、頑張って野良を育て、山を越えて行きます。



あたらしいともだちがいつぱい

K組 Mさん

わたしは、いま15さいです。6月3日、日本にきました。日本はさむいです。たべものはおいしいです。ものはたかい。

わたしは3時にねます。しごとないです。5時に学校へ行く。日本ごとでもむずかしいです。前に友だちドンフィがいます。みんなで日本ごべんきようします。テレビをみます。わからないです。

わたしはあたらしいともだちがいつぱい。

「さよなら またあした。」

そつぎようするみなさんは、「またあした」はありません。さびしいですね。でも、よくかんがえると、

だれでも、みんなおなじです。「またあした」は、たぶん、です。

だから、「さようなら またあした」のなかには、さようはいっしょにべんきようして、よかつたね、ほんとうにうれしかったね、そのきもちがいつぱいはいつています。

まいにち、まいにちの、すこしのがつこうせいかつのなかに、たいせつなじかんがあります。たのしいきもち、しあわせなきもちがわたしたちをげんきにします。

「さようなら またあした。」きょうもわたしはみなさんに、あいさつします。

1組担当 澤井留里



※原文の表現をそのままご紹介しています

## 一日の生活

J組 Aさん

1がつついたちしちじにおきました。そしてちょうしよくをたべました。そのあとシャワーをあびました。そのあとへやにはいつて、9じからねました。いちにちじゅうねました。

## 「この時は最後です」

1組 Hさん

今日はいつも最後です  
いつも思ってる

なんでか知ってる？

私達はいつでもなくなれる

だから、いつでも全力を尽くす

もし、その日はがんばらないと後悔

するよ

時間は長いと思っても その間に  
全力を尽くさないとむだだし いみが  
ないよ

お年寄りがいつもこう言っている  
「今がんばらなければ将来、何もできないよ。時間がもつたいない、最後に後悔するよ。だから今が大事だよ。がんばってね」



### ムクロジの実

千葉県 藤江正子

昨年、ムクロジの絵とエッセイを読んだ。羽根つきの黒い玉が無患子。子供が病気になるまいようにという意味だと初めて知ったが、幼い頃、村のお寺にその大木があった。

実はギンナン位の大きさ。若い時は緑色で熟すと皮が透明な黄土色に変わる。冬になると拾いに行き、しわしわの皮を取り除いて中の黒い玉を取り出した。羽根は家の二ワトリの羽根。店の追い羽根は赤や青のきれいな色だったが、私のは白一色。見栄えはよくないけどカーンと高い音がした。

今、村のお寺は建て替えられて、すっかり様変わりし、大木も無い。敷地に墓地もできて、我家もその一区画を買った。丁度うちの墓の位置にムクロジがあったように思うが、父母や弟がここに眠る。一昨年3月に43歳で娘が旅立ち、思い出すと、どの奥に涙の固まりが取れずにいる。

初孫だった娘はみんなに愛されて育った。庭の柿の木に作ったブランコ、たき火では焼き芋を焼き、田圃ではホタルを追いかけ…今頃は追い羽根を作ってもらってるかな。心が和んだ絵だった。

——はこしす、はこしす、悲しみを乗り越えて。



### 算数

熊本県山鹿市 平川裕子

私は放課後、学童保育に勤めています。

ある日のこと、ひっ算でひき算の宿題をしていた男の子が、

「先生、ここがわからない!」  
と呼びに来た。

「2から7は引けないでしょ。どうすればいいの」と聞かれたので、

「上から10借りてきて、引かなんたい」と言うので、

「じゃ、その10はいつ返すと?」

と聞かれ、返事に困ってしまいました。

……。借りたものは返さないとですね。

——うーむ、だいたい!



### 助け合い

三重県鈴鹿市 佐野由美子

我が家には亀が2匹います。大きい方がカメ吉、小さい方がツル吉。エサを与える時、いつもカメ吉がガツガツ食べ、ツル吉は遠慮がち。かわいそうなので、別々のケースで飼育しようかと考えていました。

ところがある雨の日のごとです。亀のケースの上に傘をさしていくのを忘れてしまい、気付いた時には大降りでした! 亀は池の中のイメージがありますが、陸地がないと子亀は溺れて死ぬ事もあるのです。「この降りでは、もうダメかもしれない!」泣きたい気持ちで裏庭へ走り、飼育ケースを見ると…、なんと! カメ吉が陸地がわりのレンガに後足で踏ん張り、前足をケースのガラス面にへばりつけて、その背の上にツル吉を乗せていたのです。いつも意地悪している様に見えたカメ吉。でもやっぱり2匹は生活を共にする仲間だったので。なんだか温かい気持ちになりました。

——やるじゃん。大っきいのに!



### 小中学生の思い出

埼玉県長瀬町 小菅文字

小1の遠足の時、金井ふじえ先生が疲れた私をおんぶしてくれたこと。冬、大雪の日に父が迎えに来てくれたこと。…どれも思い出すと嬉しい。

辛いこともあった。家が貧乏で給食も食べられず、みんなが食べ終わるまで外で待った。今はお腹がすくと、なんでも食べられる。辛いことは思い出すと涙が出て…。エンピツが買えず、中学で英語の教科書も買えず、隣の人に見せてもらった。

そんな中でも嬉しい出来事はあった。いつも忙しい母さんが参観日に来てくれたこと。朝、学校へ行くとき、同級生の家によると、おばさんが、おむすびを食べ、おむすびと言ってくれたこと。近所のおばさんも学校から帰ってきたら、おこげのご飯があるから来て。…本当に嬉しかった。

嬉しいこと悲しいこと、どっちも一生の思い出。私の誕生日は11月。もうアラセブンです。

——とは言ってもまだまだ若いから、これからや

私は、愛情の深い人が指導者だと思えます。人を育てることは、むずかしい。また、それだからこそ、人を愛することが、生きがいです。

鈴木清一

### 指導者

相手が主人とか社長であると、何か話がしにくい。こんなつまらない事を言うては、と思うし、重大なことなら、なお一層話しにくい。だから上に立つ者は、まず自分から話しかけ、どんな事でも楽しく聞いてあげる事だ。よき上役とは良き話相手の事である。



### お花見

奈良県橿原市 大佐古悦美

珍しく雪になった。瞬く間に積もり、昼過ぎには辺り一面銀世界。ちょうど4年生の娘の塾の日で、ふだんは車で送り迎えするけれど、慣れない雪道を運転する勇気は出ない。仕方なく、二人で傘をさし10cmほど積もった雪道を歩き始めた。人も車も自転車も少なく、たまに出会っても、そりりそりり……。まるで街全体が、スローモーションの白黒映画の中みたいだ。途中、古い神社の大きな樹の見える所へ来た時、娘が言った。

「お母さん、桜みたい！」雪に何度も足をとられ、泣きそうな気分で歩いていたら私は顔をあげた。葉が落ちた大きな樹の枝に沢山の雪が積もり、その周りをハラハラと大粒の雪が舞う。「きれいやね……」笑いつつ娘の言葉に感動して胸が一杯になった。

——雪が降るたび思い出す、美しくて早いお花見の日。



群馬県千代田町 田口ルミ子

「笑顔っていいな〜」

### あなたのお便りや写真をお寄せください

●投稿には、名前、年齢、職業、住所、電話番号、現在ご利用のダスキンの店名をお忘れなく。紙面やホームページでご紹介させていただいた原稿や写真にはお礼をさせていただきます。

●送り先  
〒163-0232 東京都新宿区西新宿2丁目6番1号 新宿支店新宿住友ビル内分室 私書箱 第47号  
ダスキン「喜びのタネまき新聞」編集室  
電話 03(5909)6703  
e-mail: koho4@mail.duskin.co.jp

無料 おそうじ相談 実施中!  
ダスキンコールセンター  
平日の9:00~17:00  
0120-100-100

●2ページの群馬直美さんの連絡先は  
〒190-0013 東京都立川市富士見町2-32-27 石田倉庫No.3 2F  
●4-5ページの夜間中学校の連絡先は  
墨田区立文花中学校夜間学級  
〒131-0044 東京都墨田区文花1-22-7  
電話: 03-3617-1562(夜間学級専用)  
ホームページ: <http://members2.jcom.home.ne.jp/bunkachu-sumida/sub2.htm>



### 結婚式

静岡県浜松市 森久子

次女の結婚式の出来事です。入籍も済ませ、既に結婚生活を送っていたのですが、どうしても式を挙げたいとの希望で、自分の貯金をはたいて結婚式を挙げました。

教会式で神父さまが娘婿に「あなたは妻を一生大事にすることを誓いますか」と問われる場面。どなたでもご存知の、「はい、誓います」という言葉を、長女の小3になる息子は、  
「ボクはあの時「はい、違います」と聞こえたよ」これには、みんなが大爆笑！家族中が笑いに包まれたひとときでした。  
それにしてもこの子、時々とんちんかんな事を口にする、ユーモアたっぷりの孫なのです。  
——それがボクのいいところ！ だろ？



### エコらんど 27

#### ～緑のカーテン～

種蒔きの季節。小学生の頃、ヘチマや朝顔を植え、夏には大きく育っていたのを思い出します。近ごろでは、ツル性の植物を使って緑のカーテンを作っている学校や役所などを見かけます。日差しを和らげ、葉の蒸散作用で室温の上昇を抑えられ、冷房に使う電力の削減ができるからです。家庭でもプランターに植えて、棒で固定した園芸用ネットにつるを巻きつければ作れます。ゴーヤやきゅうりを使えば副産物も収穫でき、育てるのが楽しいカーテンになりそうですね。



環境コラム「ecoらんど」にみなさまの身のまわりのエコ話をお寄せください。